



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995年10月18日

2020～2021年度 テーマ 「コロナから身を守る」「温故知新：ふるきをたずねて新しきを知る」

第308回例会 中止

6月10日に予定しておりました例会の開催については、6月1日開催の理事会で検討した結果、緊急事態宣言下でもあり中止せざるを得ないとの結論に達しました。従いまして、理事会で審議された内容についてそれぞれ報告します。

1. 会長挨拶

田中会長

新型コロナウイルスの猛威が未だ治まらず、ワクチン接種とのせめぎ合いの状況下、我々プロバスクラブの活動も制約を余儀なくされ、悶々としている毎日であります。この6月も例会の中止を決定せざるを得ない状況で、今期の活動を終えることとなってしまいました。そんな中ではありましたが、創立25周年という区切りの年として、昨年10月には記念の集い「小・中学校音楽活動優秀校にエールを送る会」を開催することが出来、杉山委員長を中心とした関係の皆様への活動に心から感謝であります。



11月には会場を日本閣に変えての特別例会で「コロナウイルスと日本人」正にタイムリーな講演を聴く事も出来、又、内山情報委員長の多大なお骨折りにより、立派な「創立25周年記念誌」を発行することが出来ました。貴重な一里塚として、我がプロバスクラブの歴史に残ることでしょう。

来年11月24日には、我がクラブがホスト役となって、全日本プロバスの総会（全国大会）「東京八王子2022」が開催される予定になっています。

コロナ騒ぎの折柄、思うようには行かなかつた今期ではありましたが、皆様のご協力には心から感謝申し上げます。

2. パースデーカード贈呈

例会中止のため郵送しました。

6月生れの会員は次の方々です。



持田律三会員



一瀬明会員



塚本吉紀会員

3. 新年度役員人事等について

河合副会長

第26期の会長職に任じられました河合和郎です。本来なら6月の月例会でお話しすべき事項ではありますが、新型コロナウイルスの蔓延防止の為の非常事態宣言下、6月例会が中止となりました。昨年来、コロナ禍により、私達のプロバス活動も円滑な推進が出来ませんでした。事業の中止や延期、月例会の中止など、大きな影響を受けてきました。



そうした中で、2021年度（第26期）が7月から始まりますが、人事案等をお諮りする総会も「紙面総会」となりました。この結果を受けて、去る5月20日の第1回理事会におきまして、正副会長と幹事の互選を行い、合わせて会長指名の副幹事、交流担当、各委員会委員長、「宇宙の学校」プロジェクトリーダー（小・中学校音楽活動優秀校音楽祭）プロジェクトリーダーもそれぞれ決定いたしました。こうした理事会での手続きについても、会員の皆様への直接のご説明もままならない状態が続いております。

こうした状況下ではありますが、7月からの新年度へ向けて新たな体制の下でスタートしたいと考えますので、その内容をお示しし、ご理解と御協力をお願い致します。

新年度の人事・組織編成の基本的方針として、正副会長・正副幹事を除き、前年度と同じ体制で継続することといたしました。これはコロナ禍により、十分な事業が出来なかったことに加えて、年度替わりの事務引継ぎ等の事務処理をできるだけ簡略化して、本来業務に集約して頂くためのものであります。

今後、改めまして月例会等でお話する機会もあるかと思いますが、6月理事会の決定事項のお知らせに合わせて、新年度へ向けての人事構成等の考え方を示した次第です。

次年度人事構成・役員分掌（敬称略）

会長	河合 和郎
副会長	池田ときえ
幹事	山口 三郎
副幹事	有泉 裕子
例会委員会委員長	齊藤万里子
副委員長	野口 浩平 井上 克
情報委員会委員長	内山 雅之
副委員長	永井 昌平 持田 律三
会員委員会委員長	寺山 政秀
副委員長	岡本 宝蔵 深谷 正徳
研修委員会委員長	飯田富美子
副委員長	田中 信昭 根本 照代
地域奉仕委員会委員長	馬場 征彦
副委員長	武田洋一郎 鈴木はるみ
「宇宙の学校」プロジェクトリーダー	下山 邦夫
サブリーダー	下田 泰造
サブリーダー	高取 和郎
交流・広報担当	一瀬 明
会計監査	岡部 洽 鈴木はるみ
会長委嘱	全日本プロバス協議会 立川富美代
	田中 信昭
	小・中学校音楽祭プロジェクト
	杉山 友一

4. 幹事報告

理事会で審議し、7月の定期総会に上程する議案は次の通り。

第Ⅰ号議案 2020～2021年度事業報告
 第Ⅱ号議案 2020～2021年度一般会計決算報告

持田幹事



第Ⅲ号議案 2020～2021年度活動準備資金特別会計決算報告

第Ⅳ号議案 2020～2021年度第25回生涯学習サロン特別会計決算報告

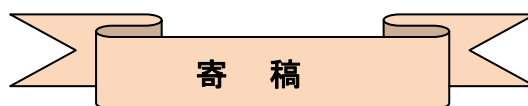
5. 各委員会活動報告

25周年記念事業報告

杉山 友一



当初計画された「次代を育てるはばたけ未来！！音楽祭」は、コロナ禍により事業計画を分割し、前半の事業として2020年10月3日、学園都市センターを会場として、小・中学校音楽活動優秀校にエールを送る会を開催し、該当3校に活動奨励品の贈呈を行いました（報告済み）。後半の事業として、いちょうホールを会場とした音楽祭については2021年3月21日を予定していましたが、これ又コロナ禍により開催不可となりました。しかしながら、本件は頂戴した活動奨励品へのお返しの気持ちも込めて、子ども達の鍛錬の成果を是非聴いて欲しいとの小・中学校からの強い要望もあり、現在2022年3月20日いちょうホール会場（年度を跨ぐ関係から次年度の事業提案として）の検討を進めているところです。何卒今後ともご理解とご協力を切にお願い申し上げます。



横好きゴルファーの戯言(たわごと)

馬場 征彦

初めに

私の「ゴルフ事始め」は遅く1986年5月の大宮国際CC、47歳の時でした。スコアは何と156で、今思うと付き合いしてくれた仲間（NEC府中事業所）に頭が下がります。翌年海外事業も展開する事業部（我孫子事業所）へ異動し通算6回目には海外（サンパウロ）でもプレー（162）したこと、9回目には117（八千代GC）と少し改善出来たこと、更に15回目には「馬場杯」も作るなど、次第に周囲の環境に流されながらその魅力にはまっていたのでした。



しかし、実態は典型的な“下手の横好きゴルファー”であり、110切りは25回目（1989年）のサンパウロ（102）、100切りは1992年の利根川・河川敷コース（95）でした。しかし、これらはまぐれで平均すれば百獣の王（110前後）や猛獣の王（+10）というのが実情でした。

戯言1・私にとってのゴルフ

典型的な横好きゴルファーですが、今考えてもゴルフをやっていて良かったとつくづく思います。一度でもラウンドを共にすると仲間意識が生まれるのがゴルフの長所であり、親しくなるにはもってこいの手段だと思います。ゴルフの本質はラウンド仲間との戦いではなく「ゴルフ・コースとの戦い」にあることも性に合っているのでしょうか。

リタイア後の交友の広がりや心身の健康維持も含めて、ゴルフ無き人生は今では想像が付きません。後述する「ゴルフの縁」で、思いもかけず「プロバスクラブ」の会員となり、多くの素晴らしい方々との幅広い交流の輪が広がったのです。まさしく“横好きゴルファー万歳”です。

戯言2・海外でのプレー

海外出張先でも数多くプレーしました。週末出発が多く、現地駐在員は土日であっても自分も楽しめるし、出張者も時差ぼけ解消としてゴルフは最適なものでした。

南米（ブラジル・アルゼンチン・チリ）、米国（テキサス・マサチューセッツ・カリフォルニア・ハワイの各州）、アジア（マレーシア・タイ・中国・インドネシア）、英連邦諸国（英国・豪州・ニュージーランド・南ア）等12ヶ国で延べ60回余りプレーしました。現地の有名コースも幾つかラウンドし、百獣の王振りを発揮したものでした。

戯言3・ゴルフが取り持つ思わぬ再会

2001年3月に相武CCの会員になりました。偶然にもその7月に社内コンピュータ部門から、同CCで旭化成（株）・田中信昭専務とラウンドとの声がかかりました。田中専務は当時情報処理部門も担当していたのです。同君とは大学の教養課程で同じクラス（50人）でしたが、交流は途絶えており実に久方ぶりの再会となったのです。

更に、偶然にも両者が共に八王子市在住かつ相武CCの会員ということも判り、先ずゴルフの交流が始

まりました。その後交友範囲は大きく広がり、これは終生つづくことでしょう。

戯言4・ホールインワン

2007年には、何とホールインワンも達成する事が出来ました。

「ゴルフ豆辞典」によれば中級以上のアマチュアでは凡そ2,000ラウンド（即ち年間40ラウンドなら50年を要す）、プロでも約900ラウンドに1回の確率だそうです。私の場合は幸運にも21年目・525回目で、府中時代のOB仲間とのコンペ中の事でした。（2007年12月17日・サンメンバーズCC・4番115ヤード・9番アイアン、3バウンドでカップ・イン）。因みに、大橋巨泉（2016年没）はシングルプレイヤーで過去に8,000ラウンドもプレーしたが未達成の由で、当時の「週刊ゴルフダイジェスト」に“いつかはホールインワン”というコラムを連載していました。

戯言5・ゴルフ同好会結成

2007年6月に完全リタイアし、今後のゴルフのことを考えました。

相武CCの会員名簿に同じ町内の会員13名を見つけ、翌年3月に思い切って全員へ手紙を出しました。幸いにも10名の方々の賛同を得て、第1回KS会（北野台・相武会、のち健康・相武会）を2008年4月にキックオフしたのでした。後藤一郎様・佐々木正様・寺田昌章様とはこの時初めてお会いしました。会則はなく“毎月1回有志で懇親ゴルフを楽しみ、順位はつけず、悪天なら中止”というものでした。

第3回から田中信昭君が、第4回から杉山友一様（後藤様のお誘い）にも参加頂くなど、次第に知人の輪が広がりました。今や会員数は26名、相武CCの委員会・委員が3名（後藤様・杉山様・田中君）も在籍している同好会となりました。2017年6月には“KS会第100回記念ラウンド”を迎え、相武CCの会報に掲載され記念品も頂きました。

戯言6・ゴルフの縁でプロバスクラブへ

前項の縁で、杉山様から思いもかけず「プロバスクラブ」入会のお誘いを受け、田中・馬場両名は2010年3月に同クラブの会員となったのでした。

リタイア直後は“もっと八王子を知ろう”と考え市の広報等を見て行事に参加していましたが、参加者との交流はその場限りでした。プロバスクラブ入会后、私のシニアライフは大きく変化し、多くの素晴らしい

会員諸氏との交流が加わり、地場との縁も豊かになりました。

下手でも好きなるが故のご褒美でしょうか 「ゴルフを通じた不思議な導き」を感じています。

終わりに

ゴルフにはハンディキャップ (HC) や新ペリア方式等の弱者救済システムがあり、現役時代のカップが 10 個あります。未だに捨てられないのは弱者たるゆえんでしょうか。ベストスコアは 86 (2003 年の東急セブンハンドレッド等 3 回) ですが、年間平均のベストは 2007 年 (69 歳) の 100.9 (41 回 ; 91~112) で、平均 100 切りには一歩及ばなかったのは心残りです。HC の最高は 23 で、開始年齢の半分にはなるとの俗説 (?) を何とか達成し喜んでます。

最近では飛距離ダウンが顕著ですが、昨年 12 月に“今後はゴールド・ティからプレーする”と決めて気が楽になりました。今後も健康第一に徹しつつ、あれこれ“戯言”を言ってゴルフに興じることでしょう。お付き合いをよろしくお願い申し上げます。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

童謡「どんぐりころころ」

この童謡の一番は、なんとなく口をついて出て来ますが、二番が思い出せません。調べました。

二、どんぐりころころ 喜んで 暫くいっしょに遊んだが やっぱりお山が恋しいと 泣いてはどじょうを こまらせた

この童謡は二番までしかありませんでした。作詞家青木存義さんによると「あえて三番は作らなかった」と言っています。子ども達の想像力に委ねたのでしょうか。ところが、幻の三番があったのです。

三、どんぐりころころ 泣いてたら 仲良し子リスがとんできて 落葉にくるんで おんぶして急いでお山に 連れてった

1986 年 (昭和 61 年) に岩河三郎さんが三部合唱用に編曲した際に付け足したものとされており。付け足した理由を「童謡はお母さんの愛情を感じさせる音楽だと思います。母の愛情を表現するために三番をつくりました」と語っていたそうです。

このような経緯があったとは知りませんでした。

(M. U)

俳句同好会便り

私の一句 (六月の句会から)

河合 和郎

残念ながら今月も集まっての句会は開催できなかった。頼りはワクチン接種率の向上。一日も早く安心して出歩ける日常が戻って欲しい。

信濃路や生蕎麦の暖簾くぐる夏 矢島 一雄

旅路の一景か。蕎麦の本場には十割蕎麦の店も多い。ひと夏の思い出を一句に留める。

夏近し生きてるだけで丸儲け 池田ときえ

句評に「私も同感」の声あり。誰しもがこんな思いで年を重ねるのか。人生、楽しまなくちゃ。

コロナ禍や自粛の末の山椒魚 田中 信昭

井伏鱒二の短編小説「山椒魚」が下敷き。家籠りも一年半を超えるとそろそろ限界が……。

直立し燃えて生きるや立葵 下山 邦夫

立葵の花の姿を正面から詠む。力強い一句になった。中七の措辞は人の生き方にも通じる。

明滅に命かけたる蛍かな 飯田富美子

蛍の明滅は遊びではない。命を繋ぐ恋のシグナル。ほんの数日間の命がけの恋なのである。

天体ショー一見せ場を阻む走り梅雨 馬場 征彦

5 月 26 日の皆既月食の一句。残念ながら揚句のように梅雨空でほんの少ししか見られなかった。

カワセミの川面一閃小魚を 野口 浩平

翡翠の狩の様子を一句に。光が走るように俊敏な動作で水中の小魚を仕留める業は見事なもの。

ワクチンや生殺与奪夏の陣 東山 榮

コロナ対策の決め手と言われるワクチン接種もようやく軌道に。勝利宣言の日が待たれる。

植田澄み水面に遠き嶺をおく 河合 和郎

日本の美しい原風景の一つ。深々と水の張られた植田は鏡のように遠景を映している。

編集後記

会員皆様方から寄せられた寄稿文により、4 頁だてで発行出来ました。コロナ禍によりお会いする機会が減りましたが、一年間のご協力に感謝しております。次年度もよろしく。内山雅之

